

# 東京医学会

## 東京医学会 第 2458 回集会

日時：平成 20 年 10 月 17 日（金） 15：00～15：45

場所：医学部教育研究棟 13 階 第 6 セミナー室

演者： Kasisomayajula Viswanath, PhD

（所属）ハーバード大学公衆衛生大学院准教授および同校ヘルスコミュニケーション専攻・専攻長

演題：「21 世紀の公衆衛生及び医療におけるヘルスコミュニケーションの役割」

背景： 世は超情報化社会であり、ともすれば、エビデンスが情報の波に埋もれがちである。そのような 21 世紀現在、公衆衛生や医療に携わる者に求められていることの一つは、信頼のおけるエビデンスを、いかに分かりやすく社会に広めていけるか、ということであろう。

米国 NCI (National Cancer Institute)では、1997 年より DCCPS(Division of Cancer Control and Population Sciences)を立ち上げ、“ヘルスコミュニケーション”の名の下、いかにエビデンスを世に広めていくか、戦略的かつ科学的な試みを行ってきた。今回、DCCP で 50 名を超す研究者を率い、ヘルスコミュニケーション研究を進めてこられ、現在は Harvard School of Public Health でヘルスコミュニケーション専攻の専攻長として活躍されている Dr.Viswanath 氏を招き、21 世紀の公衆衛生及び医療におけるヘルスコミュニケーションの役割についてご講演頂く。

紹介： Dr.Viswanath 氏は、1960 年インドで生まれ、広告代理店などで職業経験を積んだのち、ミネソタ大学にてマスコミュニケーションの博士号を取得(1990 年)。2008 年現在、ハーバード大学公衆衛生大学院准教授および同校ヘルスコミュニケーション専攻・専攻長を務める。また Dana-Farber Cancer Institute では、Center for Community-Based Research の教授陣の 1 人であり、Dana Farber/Harvard Cancer Center のヘルスコミュニケーションのコアリーダーでもある。

Dr. Viswanath 氏の現在の主な研究分野は、マスコミュニケーションと社会の健康の関係を、マクロソーシャルな手法を用いて研究することである。特に、下記の 3 つに注力している。

1. 何故ある人々において健康情報へのアクセスが悪いのか、その原因究明
2. (医療の社会学やヘルスジャーナリズムを含む)健康とサイエンスレポーターティングの研究
3. ニュースやエンターテインメント等のマスメディアが、人々の知識や態度、行動へ与える影響の研究

主催：東京医学会

共催：公共健康医学専攻・医療コミュニケーション学分野